

「じりつ」をどう語るのか？
～本学硬式野球部員の語りから～

高野尾 翼（競技スポーツ学科 スポーツ情報戦略コース）
指導教員 豊田 則成

キーワード：自律，自立，チーム，

1. 緒言

本研究は『「じりつ」をどう語るのか？～本学硬式野球部員の語りから～』というリサーチクエスチョン（Research Question：以下RQ）を設定し、「じりつ」に着目しながら質的にアプローチし発展継承可能で有益な仮説的知見を得ることを目的としている。

2. 方法

研究の対象者として、本学硬式野球部員7名を対象とし、半構造化インタビューを実施した後、質的研究の代表的手法である、グラウンデッド・セオリーアプローチ（Grounded Theory Approach：GTA）を行った。

3. 結果と考察

本研究は、『「じりつ」をどう語るのか？～本学硬式野球部員の語りから～』というRQに対して「自己を見つめることで未熟さを知ることができる。また、未熟さを知るとは自己を見つめているといえる。これらを繰り返すことに

より、自己を高めることが出来る。そして、自己を高めることは、もう一度、自己を見つめることや未熟さを知るに戻りサイクルする」

4. まとめ

周囲の意見を素直に聞き、目標を達成するために取りかかる事や、取り組み方を見直すと言った、自己を見つめることを行う。次に、自己を見つめる内に、周囲に対して不満が生まれることと、周囲から指摘され葛藤することから、周りが見えなくなるといった、自分のことしか考えられなくなる状態に陥る。そして、その状態から自分の甘さに気づき、己の未熟さを知ることができる。この、自己を見つめることと、未熟さを知ることの繰り返すうちに、自己が高まる。これは、周囲に好影響を与える選手になりたいという欲求から、自ら練習の意図を理解して取り組むことやチーム内の役割を全うすることを行う。つまり自他が同化し、チームとして一体化すると言える

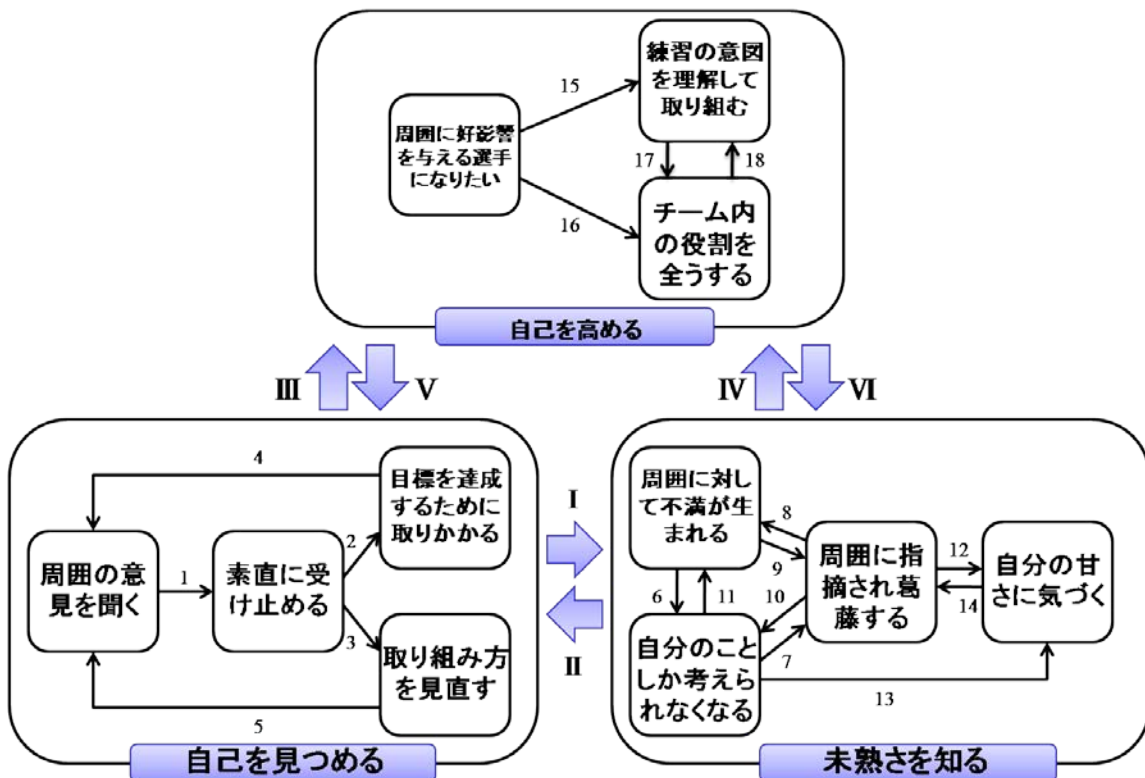


Fig.8: 自己を見つめることにより自己を高めるサイクル